

パルシステム生産者・消費者協議会
2016年度上期東北・北海道ブロック会議 報告

生消協事務局

- ・2016年9月5日（月）～6日（火）に大潟村（秋田県南秋田郡）にて2016年度上期東北・北海道ブロック会議を開催しました。
- ・14産地56名の生産者、大潟村・高橋村長、JA 大潟村・小林組合長、生消協役員12名、秋田県立大学・佐藤名誉教授、谷口アドバイザー、ジーピーエス・野村専務ほか2名、パル・ミート・大泉専務、パルシステム連合会・原専務理事、渋澤常務執行役員ほか4名の合計82名が参加しました。
- ・来賓挨拶では高橋村長より「大潟村の生産者は海外研修に参加し、先進事例と国際感覚を学ぶよう取り組んでいる。農業を取り巻く厳しい状況にも立ち向かえるよう今後も対策を検討して行く。」、小林組合長より「農林水産省の幹部と懇談する機会があった。2020年の東京オリンピックでは安全・安心な農産物を選手に提供すると聞いた。この取り扱いの基準は有機になると考える。これはパルシステムに出荷する大潟村の生産者の取り組みをアピールする絶好の機会。」と述べられました。
- ・受入産地プレゼンを有限会社花咲農園・戸澤代表取締役と大潟村産直会オーリア21・小熊代表より行い、組織の理念、生産者の紹介、生産のこだわり、交流事業等について説明を行いました。
- ・消費者幹事報告は梅原幹事、杉本幹事、小山幹事、佐藤幹事が会員生協での活動報告を行いました。
- ・秋田県立大学の佐藤了名誉教授より「TPPの今後」と題した講演を行いました。アメリカ大統領選挙の動向とTPP発効後の影響、関税撤廃率の国際間比較、例外の取り扱い、各国の動向、富裕層と貧困層の格差等について説明をいただき、総括を谷口アドバイザーより行いました。生消協という組織の特徴、取引先と対等な立場で話し合える素晴らしさについてまとめを行った後に、ホテル内にて懇親会を行いました。
- ・2日目は大潟村干拓博物館見学、戸澤幹事の圃場視察を行い、JA 大潟村にてまとめを行いました。海面より低い農地干拓の苦勞とパルシステム向けのお米の生産、生育状況の確認を行いました。
- ・次年度の開催地域は北海道に決定し、富良野青果センターを受入産地とすることが五十川ブロック長より報告されました。



・会議の様子



・大潟村村長挨拶



・産地プレゼンの様子（戸澤代表取締役）



・産地プレゼンの様子（小熊代表）



・消費者幹事報告



・佐藤先生による講演



・懇親会の様子



・大湊村干拓博物館見学



・圃場視察の様子



・まとめ終了後の集合写真

以上